

こども通信

桜の花とともに過ぎ去った四月が終わり、新緑の五月。ついこの間まで雪に覆われていたのがウソのようなお天気になっていま

しまつからなのかもしれません。これからは大いに外にでて、体を思いっきり使って遊びましょう。

す（山はまだ多くの雪が残っているようすが）。私の長男は栃木で生まれ、冬でも日中は外でいっぱい遊べました（もうずいぶん前の話ですが）。でも新潟に来てからは、冬場の外遊びはどうしても限られています。



この時期の健診では、寝返りやハイハイがあまり得意ではない赤ちゃんを多く見かけます。夏場に育つの子とは違って、衣服も多く着ていますし、抱っこやおんぶが多くなつて

すね。子どもにかけるお金は、もっと大きな価値をもって戻ってきてますよ。子どもの健やかな発達、そして活気あふれる社会となつて。

でも、大人の遊ぶ場所は大きなものがいろいろとあるのに、子どものための施設がありません。冬の遊び場がデパートの中だけとは、寂しい（貧しい？）話です。この冬、上越市民プラザの中に「こども広場」がオープンし、多くの子どもたちでにぎわっているのは、うなずけますね。

塚田こども医院
 上越市栄町 2-2-25
 TEL(0255)44-7777
 FAX(0255)44-8456
 時間外090-3333-4388
 E-mail tsukada@kodomoiin.com
 ホームページ http://www.kodomoiin.com/

事故予防のヒント
自転車に小さな子に乗せるときは最後に、下ろすときは最初に。日本では一般的ではありませんが、ヘルメットは本当は必要です。

六月中旬に「病児保育室」を開設します。急性期の感染症のお子さんも対象です（はしかを除く）。保母を二名採用し、今前半は近くの保育園にて研修しています。詳しい内容などは今月下旬にお知らせします。よろしくお願ひします。

F M J (エフエム上越) での子どもの健康・病気などについて毎週お話しています。よろしかったらお聞きになって下さい。（「今月の予定」参照）

この「通信」をご家庭でご覧になりたい方には、FAXでお送りします（無料、毎月も可）。ご希望の方は医院までご連絡下さい。

今月の予定

- 上越市の予防接種（麻疹、風疹、三混、日脳）
火、金 午後1：30～2：30
月、火、木、金 午後4：30～5：00
- 乳幼児健診、任意の予防接種
毎週木曜 午後1：30～2：30
- 院長出務
上越保健所未熟児健診 15日
上越市乳幼児健診 9、16、23日
谷浜小学校健診 30日
有間川、長浜保育園健診 30日
育児相談（ジャスコ内）20日
有線放送「健康ライフ」19日朝6時-
「保育園での生活で気をつけること」
F M - J 「Dr.ジローのこども健康相談」
月曜午前9：15頃～（76.1MHz）
第1週（7日）子育てアドバイス、第2週（14日）子どもの病気、第3週（21日）予防接種、第4週（28日）事故予防

感染症情報

先月（4月）は、インフルエンザの発生が月末まで続いていました。おたふくかぜ（流行性耳下腺炎）の流行が年度をまたいで続き、現在もまだ終わっていません。水ぼうそう（水痘）は新年度にはほぼ終息したようですが、いずれまた流行が繰り返されると思います。いずれもワクチン接種を受けることで予防ができます（任意接種）。

嘔吐下痢症（ウイルス性胃腸炎）はまだ流行していますし、溶連菌感染症もまた増えています。

全国的にははしか（麻疹）の流行が懸念されていますが、当地では発生はまだないようです。1歳を過ぎたら早めに予防接種を受けるようにして下さい。

手足口病を少し見かけました。夏場にはやる感染症の一つで、今後増えてくると思います。

当院から [感染症情報] を毎週お伝えしています。 (0255)44-7722(無料)
 F M - J (エフエム上越76.1MHz)=金曜13：30～ 上越有線放送=月曜18時～
 i-Mode携帯・パソコンに毎週送信しています。ご希望の方はご連絡を。

指しゃぶりは自然、

心配しないで

【質問】3歳の次女が指しゃぶりをします。やめさせた方がいいのでしょうか？

なぜ、指しゃぶりをするのでしょいか？

愛情不足なのでしょうか？ 止めさせた方がいいとしたら、どうしたらいいのでしょうか。（上越市・Kさん）

指しゃぶりについては、よく質問を頂きます。

赤ちゃんから幼児のときは、するのが普通です。小学校に入るところには自然になくなっていきますから、心配する必要はありません。

胎児の様子を調べると、お母さんのお腹にいるときからもう指しゃぶりをしていることが分かっています。指しゃぶりは赤ちゃんにとって自然なことです。

では、なぜ指しゃぶりをするのでしょいか？ 指しゃぶりは一種の「精神安定剤」とお話ししています。大人も緊張したり、不安な気持ちになったりする

何か癪がでますね。自分の気持ちを落ち着けるお気に入りのものも、きつとあるはず。子どもも同じです。

眠くなったときや、つまらないときに指しゃぶりをすることで、気持ちを落ち着かせているわけです。

親御さんの愛情不足でなるわけでもありませんし、お子さんの甘えすぎでもありません。そのために指や爪がおかしくなったり、歯並びが悪くなると心配することもありません。

もし、指しゃぶりをやめさせようとして強くしかりすると、その子は不安になるだけで、解決にはなりません。指しゃぶりをしなくてもすむようになるまで、ゆっくりと待っていて下さい。

ただし、目がしっかりとさめている時間に指しゃぶりをしていたり、友だちの輪からぼつんと離れて指をしゃぶっているようなら、何かしら面白くないことがあるはず。その子への関わり方や、日中の遊びなどを見直してみ

下さい。（四月三日）

日FM J「こども相談室」より

不安なお母さん励ますのも大切

「乳幼児の健診で気分が沈んだ日」（一日）を読み、私も小児科医として、同じようなつらい思いをお母さん方にさせていたのではないかと、反省しています。専門家の何気ない一言が、お母さん方の自信を失わせることもあるという事実

に注意しなければならぬと感じました。

お母さん方を戸惑わせる原因には、言葉使いの問題ばかりでなく、健診の役割や性格が、社会の変化に対応していないことにもあるように思います。

かつて食べ物不足していた時代には、子どもの栄養状態や健康状態をチェックするために種の物差しを使い、「正常」と「異常」をはっきり評価する必要がありました。でも、社会が豊かになった今では、むしろ、体や心の成長はみんな違うという観念に立ち、個性を大切にしながら、より良い成長を考えると、健診の在り方も変えていくべきでしょう。

確かに最近では、児童虐待の可能性も考えながら、発育状況をチェックしなければならないという事情もありますが、「孤育て」とも言われるように、社会や夫からも十分な理解が得られない中で、頑張って子育てをしている多くのお母さん方を元気づけることも健診の大切な目的は、必ずです。

「あなたが頑張っているから、お子さんがこんなに大きく、立派に育っているよ。」こんなメッセージを心をこめて伝えていきたいと思

います。（読売新聞四月一日「気流」欄掲載）

投稿 2 題

患者への負担強いる医薬分業

一九日付社説「広がる院外処方」では、医薬分業が急速に普及してきたことを受けて、安全な調剤業務のために「薬剤師は専門性向上を」と主張しています。現在、分業率は四〇%を超え、大病院でも院外処方を発行するのが普通になってきました。しかし、医薬分業が患者さんを本当に幸せにしているのか、疑問に思っています。

かかりつけ医と同じように、患者が「かかりつけ薬局」を持つことが期待されていますが、現実はどうでしょうか。多くの調剤薬局は、医療機関に近接する「門前薬局」です。一軒の病院に対して一軒の薬局があり、患者は受診する医療機関の数と同じだけの薬局を訪れています。

医薬分業では、病院から外にでて、もう一度薬局へ行きます。経済的負担が増えるだけではなく、体力のない老人や、急性疾患で具合が悪いことが多い小児などにとっては、その肉体的負担は決して少なくありません。雨や雪などのときには、いっそつです。

薬剤師による安全な調剤業務は必要ですが、それを院内で行う仕組みがなぜできないのでしょうか。日本の医療行政は「院内処方切り捨て」「医薬分業優遇」へ大きく舵を切ったままです。医療の中心にいるはずの患者さんが取り残されていることに、危惧を憶えています。

（新潟日報四月二十四日「声」欄掲載）